

第36回全国少年少女レスリング選手権大会が7月に和歌山市で開催され、小学4～6年生1、244選手が集い、熱戦を繰り広げました。本市からは、前原大輝選手（東小5年）と前原大晟選手（東小3年）兄弟が出場。大輝さんは、小学生の部5年生39キ級で3位、大晟さんは、小学生の部3年生24キ級で2位に入賞し「兄弟で入賞できてうれしい」と声をそろえます。二人は4人兄弟の次男と三男で、兄の晟人さん（妻ヶ丘中2年）は九州レベルの大会で4連覇中、父親の英介さんも高校選抜全国大会出場経験を持つ元レスリング選手で、まさにレスリング一家。

子どもらがレスリングを始めたのは、英介さんが「ウエルネスキッズ都城レスリングクラブ」でコーチを務めていたことがきっかけで



大会のメダルと賞状を手にする二人

# Smiling faces of miyakonojo 人の風景

した。長男5歳、次男4歳、三男は6歳の時に入会。兄弟は、幼児から小学6年生まで約30人が所属する同クラブで、早水体育文化センターを拠点に、週2回の練習に励んでいます。

レスリングを始めた当初、父の厳しい指導に涙を流した兄弟。大輝さんは小学校低学年の時、初めて出場した大会で敗退し、「もっと強くなりたい。そして全国大会に出場したい」と強く思い、過酷な練習にも自主的に取り組むようになりました。

現在は、クラブの練習のない日も毎日学校が終わると、近所の公園で3キ級の走り込みや、自宅に造ったレスリング場で、父考案のオリジナル練習メニューを夜9時までこなします。「レスリングを通じて、強い精神力と厳しい環境にも対応できる人になってほしい」と、子どもの成長を願う両親の思いを受け止め、技も磨きながら心も体も成長しています。

「レスリングが大好き。厳しい



ウエルネスキッズ都城レスリングクラブのメンバー

練習は大変だが勝ったときはすごくうれしい」と話す大輝さんは「来年は兄弟そろって全国大会優勝」と意気込みを語り、大晟さんも「次こそ優勝したい」と目を輝かせます。

大輝さんの将来の目標は、2026年宮崎国体の高校生の部で優勝すること。そして、オリンピック出場と二人の夢は膨らみます。



レスリングに燃える前原兄弟  
次なる目標は全国大会優勝!!

第36回  
全国少年少女レスリング選手権大会

3年生の部24キロ級 2位

たいせい

**前原 大晟** さん (上段)

(東小学校3年)

5年生の部39キロ級 3位

たいき

**前原 大輝** さん (下段)

(東小学校5年)